

医学教育センターの活動について

医学教育センター長 今井 裕一

医学教育センターは、学生生活によく慣れそれぞれの目的を持って進みだした1学年次から、卒業試験・国家試験に向けてラストスパートでひた走る6学年次に至るまでの全学年に対する様々な取り組みを行なっています。今回は、今年度から新しく決められたルールと、この数ヶ月間の具体的な活動内容を報告いたします。

6学年次対策

6月末から4週間にわたり、総合試験と医師国家試験に向けての講義として「総合医学2」を実施しました。特に先の第101回医師国家試験の難易度が高かったことから、この出題傾向等にも配慮した講義の実施をお願いしました。また、総合模擬試験（プレ卒試）の結果をみると、多くの学生は順調に力をつけてきています。しかし、残念ながら模索中の学生も見受けられました。当センターでは、内科学講座の教育担当教員に、伸び悩む学生の相談役をお願いしました。本人が気づけなかった弱点を明らかにし、それぞれに合った勉強方法を学生自身が発見できるようになることを目指しています。

5学年次対策

これまで、BSL 期間中は学生の評価は行っていませんでした。また、教える側の評価についてもBSLの最終時に行なっていました。しかし、評価が1年後であるために教わる側、教える側双方へのフィードバックが遅れ、有効に作動していませんでした。今年度から、内科学講座と総合診療科で、実習開始時にミニマムエッセンス（15項目程度）を提示し、実習終了時に各科で小テストによる評価をすることに改めました。同時に学生からの評価もBSL終了時に直ちに行ない、当センターにおいて集計及び解析を行っています。評価の低い学生には、適宜、医学教育センター教員が個別に指導を行います。また、評価の低い診療科に対しても、個別に指導を行います。なお、ミニマムエッセンスは国家試験の必修・一般項目に相当しています。

全学年次共通対策

“学生と教員との意思疎通を図る場”を設けることにより、教育体制の改善を図りたいと考え、各学年次の学生代表と医学教育センター教員で構成する連絡会議「医学教育向上プロジェクト委員会」（同誌5月号「福沢教授挨拶」文中参照）を立ち上げました。第1回開催を控え、6月中に“顔合わせ会”と称して学生たちに集まっていただきました。予想以上に活発な意見交換が行われました。今後、学生教員双方にとって実りある会にしていきますので、どうぞよろしくお願い致します。

「医学教育向上プロジェクト委員会 “顔合わせ会”」



撮影協力:林講師, 今井センター長, 福沢教授, 5,6 学年次生

”質の高い試験問題作成のためのノウハウを学ぶ” ～第2回医学部教員研修～

7月6日（金）、元本学医学部客員教授の植村研一先生をお迎えして、教員研修「試験問題作成のノウハウ」を開催しました。参加された先生方は、植村先生のご講演及び試験問題の改訂作業（ワークショップ）を通して、良問作成のためのノウハウを学びました。今年度の卒業試験問題に反映されることを期待しています。

医学教育センター 福沢嘉孝



”医学教育”を科学として行う ～基礎医学セミナー～

基礎医学セミナー；医学部2学年次の皆さんに、一線の基礎医学研究の現場（基礎医学系講座、附属教育・研究施設）に参画してもらうことで、普段の講義や実習で体験できない研究心にふれてもらう授業科目です。

医学生である皆さんにとって、医学教育はもっとも身近な、生活の中心の一つです。しかし、あえて考えてみましょう。医学教育の「医学」ってなんでしょう？「医学」と「医療」はどう違うのでしょうか？

医者は皆さんの訴えを聞き、診察し、検査し、診断をします。そして、診断に基づいて治療を行います。そうやって、患者さんのいいところを更に向上し、悪いところを少しでも改善しようとしています。

しかし、それだけでは医療は医学足りえません。医者は自らが日々行っている診察や検査や診断、そして治療を客観的に振り返り、その結果が有効であったかを評価します。有効であったものは更に進め、そうでなかったことやかえって悪かったことは、行わないようにします。これらの経験と根拠に基づいているからこそ医療は医学になるのです。

医学教育センターでは、本学の医学教育のいいところを更に向上し、悪いところは少しでも改善するべく努め、それが皆さんの願う形にも沿うことを願っています。そのために私たちは、医療が医学に基づくように、医学教育を科学として行うことを、センターの大きな目標としています。

皆さんには、この目標達成のために頑張ってもらうだけでなく、この学習の成果を“医学教育学会大会”で発表してもらう予定です。

医学教育センター 林 省吾

～SP(模擬患者)勉強会～

8月4日（土）、愛知医大の模擬患者さんにお集まりいただき、今年度のスケジュールについての説明等行いました。模擬患者の皆さんからは、今後の方針等について貴重な意見をいただくことができました。本学医学部の医学教育センター長、同センター専任教員、OSCE ワーキンググループの先生方に加え、本学看護学部長及び他大学の先生までもが勉強会にご出席くださり、本学の模擬患者さんへの信頼と期待がうかがえました。模擬患者の皆様、今後ともご理解とご協力をお願い致します。今後のセンター担当者は、福沢になります。

本学のSP(模擬患者)様方



左から鈴村 OSCE WG 長、福沢教授、今井センター長